

市内雨水対策について

公明党 福地 茂



問 近年、台風や豪雨によって、全国で大規模な災害が発生しています。昨年も広島県で大規模な土砂災害が発生し、多くの犠牲者と建物被害が出ました。

台風情報はかなりの精度で予報を発信できるようになりましたが、それでも、犠牲者を出しているのが現状です。集中豪雨、とりわけゲリラ豪雨ともなると、現状では予測が難しいといわれています。本市でも過去に1時間当たり100mmを超える豪雨を経験しました。

今里地区には、台風や豪雨のたびに、決まって冠水する場所が2か所あります。このような箇所に対して、今後どのような対応をされるか伺います。

答（建設部長）：本市の雨水計画は、下水道設計指針に基づき、昭和48年から当時の過去20年間の5年確率降雨量をもとに、多くの自治体と同様、1時間当たり50mmとして計画しています。ご指摘の今里地区につきましては、流末である東名高速道路から南側の永池川までの区間で、市街化調整区域内の雨水関連施設が未整備です。27年度以降、整備に向けた測量や詳細設計等を実施したいと考えております。

その他の質問

・ サマルティナル
30-10運動の推進に
ついて

・ 少子化対策について



安全・安心の
まちづくりへ

野良猫の不妊去勢手術補助金について

志政会 氏家 康太



問 市民要望の強かった猫の不妊去勢手術補助として、不妊に1頭当たり4千円、去勢に1頭当たり3千円の助成費用が、27年度予算案に計上されています。近隣市では既に実施されていると聞いていますが、他市との違いや特徴について伺います。

また、補助要綱案には一世帯2頭までの枠が規定されていますが、より効果的な対策として枠の拡大を提案します。さらに、対象者は市民と規定されていますが、市内事業者も助成対象に含めるべきと考えます。それぞれ市の見解を伺います。

答（市長）：市民から市長への手紙などで助成に対する要望を受けており、27年度から助成制度を開始します。助成対象については、さまざまな場合が想定されますが、要綱の中で老人ホームなどといった事業所も一定の方向性をもって検討します。

答（経済環境部長）：近隣では大和市以外の市町村で助成を実施しておりますが、助成枠も1〜4頭、また飼い猫のみの対象など幅がありました。本市では猫の特性や近隣市の状況を考慮し、枠を設定しました。なお、野良猫に対する助成を受ける場合はその猫を飼っていたことが条件になります。

その他の質問

・ 海老名駅東口地区無料巡回バスの導入と
コミバスの活性化策について

・ 交通安全推進条例の検討とえびなっ子の
自転車乗車時における安全確保策について

ふるさと納税について

志政会 中込 淳之介



問 ふるさと納税は、地方自治体に対する寄附行為です。この寄附は自分が居住する市町村だけでなく、応援したいと思う全国の自治体どこでも対象となります。

政府は、27年度税制改正大綱において制度の拡充方針を示しました。この拡充により、4月から税金が軽減される寄附金の上限額が2倍に引き上げられます。

また、新設のふるさと納税ワンストップ特例制度は、一定の条件を満たすことで確定申告が不要となり、手続きが簡素化されます。

この制度を活用し、本市に寄附をしてくださった方に返礼品を贈ることは、本市のPRになります。また、返礼品を今後実施予定のえびな名産50選に選ばれた名産品にすることで、名産品自体のPRにもつながるなど、地域活性化に大きく寄与すると考えますが、市長の見解を伺います。

答（市長）：これまで、ふるさと納税は本市にはメリットよりもデメリットの方が多くと考え、積極的な対応を控えていましたが、国から制度拡充案が示されたことから近隣市などの対応状況を踏まえ、研究してまいります。

その他の質問

・ プレミアム付商品券発行支援事業について

・ 食の創造館指定管理者制度及び給食費の公
会計化の状況について

消防の広域行政について

ニュー市政の会 鈴木 惣太



問 複雑、多様化した大規模化する災害への対応には他市と連携を強化する広域的応援体制が必要ですが、現在の状況を伺います。また、本市と座間市、綾瀬市による指令業務の高度化、効率化を目的とした三市共同消防指令センターの運用開始を契機に、新たな三市の応援体制を構築していくと聞いていますが、詳細をあわせて伺います。

答（市長）：増加する救急需要や災害の大規模化に対応するためには、近隣市と連携した広域的な取り組みが必要であり、4月から開始する消防指令業務の共同運用も、広域行政の観点から事業を進めてきました。

答（消防長）：現在の応援体制は、全国規模では大規模災害発生時に他県から被災地へ応援する緊急消防援助隊制度があります。近隣では、神奈川県下消防相互応援協定に基づき、本市と隣接する5市1町と相互応援を行っています。また、東名高速道路については、別に締結している協定に基づき相互応援を行っています。

三市間の新たな救急業務の応援体制は、それぞれの災害状況や車両動態が把握できるため、市の枠を超えての出動ができ、現場到着時間の短縮が期待されています。

その他の質問

・ 教育行政について

・ 市長タウンミーティング 柏
ヶ谷コミセンの意見に対す
るその後の対応について



広域化の効果に期待